

伝えることの大切さ

坂ノ市中学校 三年 安達 優華

私はこれまで、学校生活の中でリーダーとして活動することが多くありました。生徒会執行部や中央委員として、みんなに意見を伝えたり話し合いをまとめたりする経験をしてきました。坂ノ市中学校の私たちの学年では、独自の取り組み「成長フェスタ」を行ってきました。「時間に余裕をもって行動してほしい」「授業態度をみんなでよくしたい」など、各クラスのリーダーが意見を出し合って活動を考えます。そして、その活動にみんなが協力して前向きに取り組めたときは、クラスや学年の雰囲気良くなります。

ついに今年から私たち三年生が全校を引っ張っていく番となりました。ただ、気になる出来事がありました。生徒総会に向けた学級協議の時間に、クラスから全く意見や質問が出なかったのです。そして、活動が決定したときの拍手だけが続きました。何も意見が出ないということは、みんな賛成しているものだと思います。

一か月がたち、生徒総会で認められた「朝の三十秒ストレッチ」が始まる瞬間、「だるい」という言葉が、クラスの中から聞こえるようになりました。数を数える声がほとんど聞こえないまま、ストレッチは終わりました。朝、スッキリとスタートを切るための活動なのに。

私がいちばん良くないと考えるのは、何も反応を返さないことです。学級協議の時間にもっと意見を出し合うべきだったと思います。「いきなり始まるとやる気が出ない。だから、日程を貼り出して見えやすくしたらどうか」「ストレッチが健康に良い理由をわかりやすくしたらどうか」など、前向きに取り組むためのヒントがたくさん出せたかもしれません。

賛成でも反対でもなく、ただ黙ったまま。意見があるのかないのかも分からない。何も反応がなければ、お互いの考えを知ることができません。私はこの経験から、「考えを伝えること」の大切さを実感しています。

そして最近、ニュースで世界の戦争について知った時、私は「国際平和も同じなのではないか」と考えるようになりました。戦争や紛争が続く中、たとえ個人であっても「戦争をやめるべきだ」と意見を伝え続けることには大きな意味があると思います。戦争が起きそうなとき、私たちが何も反応をしなければどうなるでしょうか。誰も声を上げず「自分には関係ない」「誰かに任せよう」と考えていたら、戦争は止まらないし、長引いていくかもしれません。反応がないことは、時には「認めている」と思われる可能性もあると思います。

唯一の被爆国である日本。日本にいる私たちが何も反応をしなければ、平和の大切さを伝える声が弱くなってしまうかもしれません。平和は、ただ願うだけでは守れません。戦争を止めたいと思うなら、声を上げ、考えを伝え続けることが必要なのだと思います。

「自分には関係ない」と考えるのではなく、一人ひとりが意見を積み重ねた結果が、未来につながるのだと思います。私は責任ある人になりたいです。

目の前の相手の意見を聞き、自分の考えをしっかりと伝える。そこからはじめてみませんか。